

緒方議員（自民議連）

令和2年9月29日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）不登校対策について

広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現を目指す本県として、不登校対策に関して、フリースクールなどの民間団体との連携はどこまで進んでいるのか、また、そもそも不登校の児童生徒を生み出さないための更なる対策が必要と考えるが、現在、どのような方針を掲げて取り組んでいるのか、さらには、こうした民間団体への更なる支援も必要と考えるが、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

本県では、広島で生まれ、育つ、全ての子供たちが、育っていく環境に左右されることなく、必要に応じて支援や配慮を受けながら健やかに育ち、現在や将来に夢や希望を持つことができるよう、不登校児童生徒への支援をはじめ、様々な取組を進めているところでございます。

県教育委員会といたしましては、昨年度、不登校等児童生徒を支援している民間団体へのアンケートを行い、62団体から回答をいただき、不登校等児童生徒への支援状況を把握し、その中で特徴的な活動を行っている複数の民間団体を訪問し、より丁寧な聞き取りを行ったところでございます。

また、これまでも小・中学校11校に学習支援や心のケアを行うスペシャルサポートルームを設置しているところでございます。

さらに、今年度から、安心できる居場所づくりを取組の柱とした、「不登校等未然防止推進校」を22校指定し、学級活動の中で友達の良いところや頑張りを語り合い、絆を深めるといった、お互いを認め合える人間関係づくりなど、不登校の未然防止に関する取組を進めているところでございます。

加えて、不登校児童生徒が抱える発達や認知機能上の諸課題など、様々な特性に応じた悩みについて、児童生徒や保護者が交流する場を設けたり、専門家の知見を広める講演会を開催したりすることで、当事者の声を学校現場につなげる様々なアプローチを試みているところでございます。

県教育委員会といたしましては、今後、悩みを抱えている不登校等の児童生徒や保護者に対する取組の好事例等について情報を共有するなど、行政と民間団体それぞれの取組が充実するよう連携し、「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現」に向けて取り組んでまいります。